

## 第7回ESD連続セミナー概要報告

奈良教育大学 大西 浩明

|       |                              |
|-------|------------------------------|
| ◇実施日時 | 2023 年 10 月 10 日（火）19 時～21 時 |
| ◇方法   | ZOOM によるオンライン開催              |
| ◇参加者数 | 30 名                         |
| ◇内容   | 単元構想案の相互検討③                  |

【ルーム1】ファシリテーター：大西浩明（奈良教育大学）

### 1）田中絃太郎先生（長浜市立速水小学校）

#### 小学校3年 総合的な学習の時間「大豆はかせになろう！」

学校の総合的な学習の時間のカリキュラムにある → なんとかESDの視点を入れて考えたい  
国語科「すがたをかえる大豆」との連携

1 学期種植え → 観察・写真記録      2 学期収穫 → 調理（豆腐づくり）・まとめ  
3 学期まとめの発表      長い時間をかけてようやく食べられるという体験      調理の工夫  
調べ学習で何をどのように調べればいいのか

#### 意見交流から

- ・切り口はいろいろあると思う。いろいろな食品がある。食文化の切り口もある。
- ・大豆＝タンパク質なので、家畜を育てることの問題にも入り込めるかも。
- ・豆腐作りでも、合成的ながりではなく、自然のものを使うとSDGsの視点が入る。
- ・日本の食文化の中で大豆や豆腐などがどのように扱われているのかを調べるだけでも。
- ・「大豆から何ができるか?」「どんな料理があるか?」それだけでもものすごい量がある。
- ・おからの栄養価の高さを考えると、廃棄の問題もからめられていいのでは。
- ・大豆のもつ価値、特に私たちが普段食べているものの中に占める大豆の重要性を感じさせたい。

### 2）中嶋千智さん（家庭科教育専修3年生）

#### 小学校5年 総合的な学習の時間「旧 JR 奈良駅舎」

旧駅舎は、平成10年にいったん解体が決まっていたのに、市民の反対運動があって保存されている  
「なぜ解体されず、保存・再利用されたのだろうか?」

当時駅を利用していた人への聞き取り? 市や公民館の人?

昔から守られてきたもので、大切に残していきたいものを見つけさせたい  
守ってきた人がいるから残ってきたという認識をもたせたい

#### 意見交流から

- ・「なぜ駅として使われないのだろうか?」から考えることもいいかも。
- ・保存後ずっと活用されていることがすごいと思う。そこをもう少し掘り下げてもいい。
- ・身近なところで最後考えさせるのはいいと思う。
- ・聞き取り後に何を考えさせるのかが、もっと明確になれば。
- ・どこに焦点を当てたいのかが、まだ明確でないところがあるのでは。  
それがはっきりすれば、見学のポイントや聞き取り後の展開なども見えてくるのでは。
- ・大事な「たからもの」を守ってきた奈良の人たちの思いや願いにフォーカスするのがいい。

### 3) 上部遥加さん(家庭科教育専修3回生) 小学校6年 総合的な学習の時間「アマモ場再生」

二見興玉神社の神事の中に「藻刈神事」がある アマモを取っている

「アマモって何だろう？」 海での働き、減少の原因、その影響 再生への取組

自分も中学生のときにアマモを育てて海に戻した経験がある アマモを育てよう

「アマモを守るためには何ができるだろう？」 ひろげる発問

#### 意見交流から

- ・ アマモを育てるのが目的？ アマモが育つ海にするのが目的？  
アマモを育てることが目的になってしまっは、アマモを海に戻してもなくなるのでは。
- ・ アマモがあることで生物多様性が守られていることや、海の環境改善につながっていることをデータとして見せたい。
- ・ 「なぜアマモがあるといいのか？」が大事になるのでは。  
神事であるのは珍しい 「なぜアマモを取っているのだろう？」という問いになるのでは。
- ・ 「なぜ減ったのか？」「減ったことでどうなったのか？」
- ・ アマモの再生に取り組んでいる地域は多いので、そことつながって様子を聞くのもいい。
- ・ アマモを再生して藻場が復活したことで、海の様子がどうなったのかを調べるといいのでは。

【ルーム2】ファシリテーター：中澤静男(奈良教育大学)

### 1) 苗代昇妥さん(英語教育専修3回生) 中学校3年 英語科「I have a dream」

①写真の提示：キング牧師の演説を聴くために多くの人が集まっている。

②教科書及びYouTubeによるキング牧師のスピーチを知る

公民権運動、平和な手法での改革を目指す、中身で人を判断する世界をつくろうとしていた

③Black Lives Matter 今も繰り返される黒人差別の事実の提示

なぜ、差別が残っているのか・話し合い

→想定される生徒の意見 無意識レベルでの差別

他人を差別することで安心感を得たい

④What can I do to realize the world which all people live happily ? をスピーチしよう

まず、日本語で話し合い、スピーチをつくっていく。

生徒に自分が世界をつくっていく当事者なんだという意識をもたせたい

#### 意見交流から

- ・ 英語の学習と人権の学習のどちらにフォーカスしたいのかをはっきりする  
英語の場合は、①基礎的な英語表現を学ぶ、②コミュニケーション力の育成が目標になる。  
キング牧師のスピーチを教材にするなら、単に読み取ることを目的とするのではなく、キング牧師の思いにふれることを目的にすることで、伝えたいことを伝える上での英語表現も学ぶことができる。
- ・ 人種差別で学習展開すべきか、人権問題に広げた方がいいのか？  
身近な人種差別に注力した方がいいのでは。  
人種差別の場合、自分事化が難しい。当事者に出合わせ、感性にうったえる聞き取りを行う。最近は、来日して働いておられる方も多い。人種差別の体験を持っている方もいるだろう。
- ・ 加害者と被害者の双方の視点で捉え、なぜそのようなことになったのかを系統的に捉えさせる
- ・ 当事者意識を持たせるには、同年代のスピーチを教材化するのがよい。
- ・ 画像での導入ではインパクトが弱い。Black Lives Matter 関連の動画がYouTubeにたくさんある

ので、その方が迫力があるだろう。

## 2) 大西遥郁さん(教育学専修3回生) 小学校6年 総合的な学習の時間「外来種と私たち」

- ①2023年6月1日アメリカザリガニなどの規制が始まる。条件付き特定外来種に指定。
- ②なぜ、規制は始まったのか、それによって何が変わるのかを考えさせる。
- ③外来種は本当に悪者なのか？駆除する必要があるのかを考えさせる。
- ④興福寺の放生会・猿沢池の記事 生態系を守るためには外来種を入れてはいけない

### 意見交流から

- ・生態系を知ることが重要。外来種は生態系について考えを深めるネタになる。
- ・「外来種は悪者なのか」は良い問いだと思う。  
ハムスターなどをペットとして飼育した子どももいるだろう。かわいいから飼いたいという気持ちにも共感できるだろう。外来種と共存するという前提にも理解を得やすい。そのためにはルールも必要ということで「規制」の意味を考えることができるようになるのでは。
- ・外来種には人間の都合で持ち込まれたものもある。人間の都合だけでなく、「人間と生物にとって住みよい場所を作るために私たちにできることは何だろう？」という発展の仕方は良い。

## 3) 志原那歩さん(特別支援教育専修) 中学校1年 総合的な学習の時間「滝宮念仏踊りのこれから」

- ①役場のポスターを提示しながら、滝宮念仏踊りがユネスコ無形文化遺産に登録された事実を伝える  
予想される生徒の反応  
念仏踊りは知っているけど、見に行ったことがないのでわからない。どんなことするの？なぜ、ユネスコ無形文化遺産に登録されたの？
- ②滝宮念仏踊りを調べよう  
滝宮天満宮で8月下旬に行われる祭りで、1000年以上続けられている。  
菅原道真が雨が降らなくてみんなが困っているときに、7日間祈り続けたのが始まり  
踊り組へインタビューする  
伝承のための取組を比較する  
長野県：しあわせ信州(若者による伝承の成功例)、青森のなまはげ・奈良の太鼓踊り
- ③なぜ1000年間も続いているのだろう  
続けることのメリットを考える
- ④続けるためにどのような取り組みをすればいいのだろう  
予想される生徒の反応  
踊り組に参加する、リーフレットを作成する、SNSなどを使って他の地域の人に伝える、他のうまくいっている地域から教えてもらう

### 意見交流から

- ・祭りには地域の人と人のつながりをつくる機能がある。
- ・祭りをすることがはげみになる、という方も多い。  
→ でも後継者不足は全国のお祭りにとって共通する課題でもある。  
ぼんやりしていたのでは続かないかもしれない。
- ・滝宮念仏踊り続けるためにを目標にするよりも、念仏踊りが1000年間にわたってつくってくれていた地域の人と人のつながりを維持する、新しくつくることを目標に、自分たちに何ができるかを考

え、行動化してはどうか。そのとき、念仏踊りの価値を実感できるのでは。

【ルーム3】ファシリテーター：河野晋也（大分大学）

1) 吉田悠亮先生（奈良教育大学教職大学院教育情報化マネジメント領域 M1）

高校2年 数学・総合（奈良 TIME）「おいしいお茶の淹れ方」

奈良の特産品でもある大和茶を扱い、そのおいしさの秘密を科学の学びを用いて解き明かし、学校内外により広く知ってもらうためにできることを探究する授業構想を紹介していただいた。学校によっては、地元と連携して販売に関わっている取り組みもあることが紹介されたほか、おいしく飲む方法を指数関数の知識を応用して解き明かそうとするアイデアについて質問が出された。

2) 山平楓さん（社会科教育専修3回生）

中学校2年 社会科「災害からわたしたちの暮らしを守るには」

京都の桂川で発生した台風18号による水害に着目し、GISを活用した防災教育について授業構想を紹介していただいた。地理院地図を活用することで、過去の水害の発生記録や、標高や土地利用、地形の状態などが一目で知ることができ、どこに逃げればよいか、どこに災害が発生しやすいかを考えられる。またハザードマップを批判的に検討させる活動が取り入れられ、小学校で行われる防災教育から一歩進んだ取り組みとなるとの意見が出された。

3) 栗山泰幸先生（奈良教育大学教職大学院教職開発専攻 M1） 高校 教科等未定（総合？社会科？）

「主権者としての権利と責任について考えよう～民主的対話と議論を通じて～」

民主的な対話と議論の技術を身に付けさせ、様々なテーマについて生徒が対話をしながら自分の考えを深めていく実践構想が紹介された。「ジェンダーレスお手洗は必要不可欠か」「生活保護世帯に車やスマホは必要か」など、子どもたちにとって当たり前だと感じやすいテーマについて、改めて問い直しをすることに意義が見いだされた。こうした対話に子どもたちが参加できるような工夫として、いかに場の設定をしていくべきか、場の設定は必要か、子どもたちが主体的に議論に参加するうえでどの程度場の設定が必要か、などの点について議論がなされた。